EVENT REPORT

Vol.322
2009-4

特集●

2008年オープン展示場・ホール

2008年にオープンした展示場およびホールの一覧を掲載

Trend Report@SHIBUYA-109

「Try! New TSUBAKI」キャンペーン
DHC「バージン美肌プロジェクト!」
香るデオドラント「Ban」体験キャンペーン

巻頭カラー●

半年間の連載特集スタート

「開国博Y150」開幕!

"伝統的"なクラシックカーが"現代的"な東京シティビューに集結

東京コンクール・デレガンス2009

東京・丸の内界隈が花であふれる6日間

東京 丸の内フラワーウィークス2009

1周年を迎えた赤坂サカスに期間限定の遊園地が出現!!

花Sacas

MERRY FARM MARKET at EARTH DAY TOKYO 2009

（代々木公園 東京都渋谷区　2009年4月18日(土)・19日(日)）

■会場：代々木公園 EARTHDAY TOKYO 2009 アグリアクションゾーン（●●㎡）　●主催：MERRY PROJECT／水谷事務所

KEY WORD

●環境問題　●子ども　●植物

OUTLINE

「笑顔は世界共通のコミュニケーション」を合言葉に，世界中の人々の笑顔とメッセージを取材している「MERRY PROJECT」が，笑顔とエコをテーマに，代々木公園で行なわれた「アースデイ」にブースを出展。さらに子どもたちを対象に，作物の苗を植えるワークショップも実施した。

CHECK POINT

◆水やりが少なくて済む特殊なプランターを使ってのワークショップ。
◆植えた苗の生育状況をwebサイトで報告。

DATA

〈ターゲット〉 広く一般
※ワークショップは子ども対象
〈告知宣伝〉 公式サイト
〈制作印刷物〉 ポスター，チラシ
〈スタッフ数〉 10人
〈入場料〉 無料
〈ワークショップ参加者〉 約30人（2日間）

趣旨

笑顔は最初のエコアクション! をテーマに，子どもたちがプランターでの体験を通してコミュニケーションを取りながら，実際に土に触れることができるワークショップを開催。野菜を育てることに興味を持った子どもたちに未来の地球環境，食の問題について考えるチカラを育ててもらう。

↑2日間あわせて約140,000人が来場した「アースデイ東京2009」。「MERRY FARM MARKET」は，このアースデイ会場内のアグリアクション・ゾーンで実施された

土だけではなく，底のほうにもみがらを敷くのがこのプランターの特徴➡

⬅⬇「MERRY FARM MARKET」では，子どもたちとともに，プランターを使って苗を植えるワークショップを実施

内容

■ワークショップ

水やりが少なくて済み，誰でも簡単に野菜や植物が育てられる「MERRY GARDENプランター」を使った苗植えのワークショップを子どもを対象に開催。1日2回×2日の計4回，それぞれ10人づつほどが参加した。ワークショップ終了後は参加者一人ひとりの笑顔撮影も実施。

■野菜，果実などの販売

ブースでは，高知県産のぶんたんや，ぶんたんから作ったジュース，岐阜県産の野菜などを販売した。そのほか，MERRY PROJECTの出版物，ワークショップでも使用した「MERRY GARDENプランター」の販売を行なった。

MERRY PROJECTとは

「あなたにとってMERRY（楽しいこと，幸せなとき，将来の夢など）とは何ですか？」というシンプルなメッセージを投げかけ，世界中の笑顔とメッセージを集めている。すでに，世界24か国，30,000人以上の人たちの笑顔とメッセージを取材した。

「MERRY FARM MARKET」は，MERRY PROJECTの一環として行なわれたもので，今年6月以降は「MERRY in ASIA」と題し，アジア各国の「今」を取材し，MERRY PROJECTが“笑顔”を通じて，世界中の人々に向けたメッセージを発信していく。

●「中国四川大地震」MERRY in Sichuan
（2009年6月7日～13日）

中国・四川大地震から1年を経た中国・四川省のようすを日本赤十字社と協力して取材。中国・四川大地震から個人住宅や学校，病院施設の再建や救援支援の継続事業などにより復興してきた場所（観光村として再興しつつある猫児石村など）に向かい，強く生きる子どもたちの笑顔を取材する。

●「スマトラ島沖大地震」MERRY in Sumatera
（2009年6月17日～24日）

スマトラ島沖大地震から5年が経つ，インドネシアのスマトラ島（アチェ州など）のようすを取材。

学校建設やコミュニティーの再構築，保健衛生事業などにより再び元気を取り戻してきた場所に向かい，強く生きる子どもたちの笑顔を取材する。

●「阪神淡路大震災」MERRY in KOBE（2009年7月）

阪神淡路大震災から15年を経た神戸のようすを取材。

震災から立ち上がり，さまざまな支援を経て新しく生まれ変わった港町・神戸において，希望に満ちあふれた子どもたちの笑顔を取材する。

●「MERRY YOKOHAMA」

横浜開港150周年事業の一環として，8月10日～8月12日まで横浜ベイサイドエリアで開催される「世界子どもサミット」の会場のほかにも，JICA横浜やWORLD CHILORENS EXPOなど，横浜のさまざまな会場を，取材した被災地の子どもたちの笑顔とメッセージで飾る。

←普段，土と頻繁に触れ合う機会に乏しい都会の子どもたちにとっては新鮮な体験だったはず

↑「子どもたちの笑顔は未来を感じさせる」（水谷代表）

←水は直接かけるのではなく，このように給水口からタンクに直接入れる。そのため水や土が流れ出ず，マンションのベランダなどでも気軽に使うことができる

→作業終了後は参加者がそろって記念撮影

←植えられた苗は子どもたちの笑顔の写真と一緒に，水谷氏のオフィスがあるビルの屋上で育てられ，そのようすは随時web上で観察日記として公開される

担当者の話

MERRY PROJECT 代表 水谷孝次 氏

3月に名古屋で行なった「MERRY FARM MARKET」に続いて2回目の開催となりました。名古屋は近郊でとれた野菜中心のマーケットでしたが，今回はプランターの紹介なども含め，総合的なものになったかと思います。

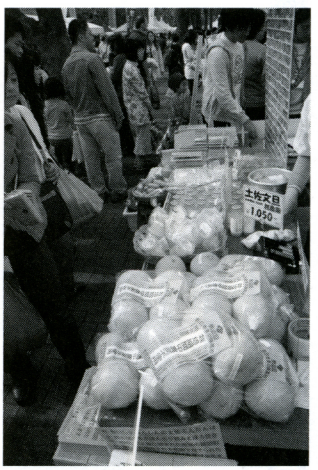
「MERRY PROJECT」の活動の一環として行なったわけですが，このプロジェクトは「笑顔」が基本（子どもたちの笑顔の写真を集めるコミュニケーションアート）。エコも，そのファーストアクションは「笑顔」からだと思っています。エコ活動をやって楽しい。農業をやって楽しい。そしておいしい野菜を食べて笑顔になる。参加した子どもたちは非常に楽しそうでした。

子どもの笑顔というのは未来を感じさせるものですが，植物にも同じことがいえると思います。種が苗になり，その苗が育ち，花がつき実になってまた種ができる。本当の意味での美しさ，力強さを感じます。みんなでコミュニケーションをとりながら，やがて参加者が主役になっていく。それがこのイベントの魅力ではないでしょうか。

現在，事務所があるビルの屋上を農園にし，そこで世界23か国の米や野菜を育てました。そこに今回のプランターも持ってきて，経過をサイトで報告しながら，夏には収穫祭を行なおうと思っています（7月を予定）。一度のイベントだけで終わるのではなく収穫まで続くんだということ。そういう意味では，今回初めて参加した人にとってはこれが始まりになるのです。

暖かくなって，外が気持ちいい季節になってきました。太陽や空気はお金に代えられません。この自然の心地よさをぜひ参加者には感じていただきたい。屋外でイベントを開催するのにはリスクもありますが，その分，屋内では得られないメリットも大きいと思っています。

地味かもしれませんが，心に響くようなものをめざしたいですし，今後も屋外にできるだけこだわりたい。参加した子どもたちにとって思い出に残るものになってくれるとうれしいですね。



ブースでは，高知県や岐阜県から取り寄せた果物や野菜を販売⬆➡

REPORT

「笑顔は世界共通のコミュニケーション」をテーマに，アートディレクターの水谷孝次氏が1999年に立ち上げた「MERRY PROJECT」。

「あなたにとってMERRY(楽しいこと，幸せなこと，将来の夢など）とは何ですか？」という問いに対する答えを，回答者の笑顔の写真とともにパネル展示し，それを見た人，さらに街全体を笑顔にしようというプロジェクトだ。

こうした活動を基本に，昨年は北京五輪の開会式で，笑顔の写真が使われたり，被災地（中国の四川など）のための復興支援などを行なってきた。

今回紹介したのは，その一環として行なった「MERRY FARM MARKET」。笑顔の写真の撮影のみならず，プランターを使った苗植え，土いじりを行なうことで，環境問題にも関心を持ってもらおうという企画だ。

舞台となったのは代々木公園でのアースデイ。2日間でおよそ140,000人もの人を集める大イベントでの開催ということもあって，効果も大きかったのではないだろうか。メディア取材もいくつかあったそうだ。

さて，この「MERRY FARM MARKET」は，今年3月の名古屋での開催に続いて2回目になる。MERRY GARDENを始めたきっかけは，ニューヨークで開かれたパーティに出席した友人から，おみやげとしてもらってきたスイセンの球根の栽培セットをプレゼントされたことだったという。早速，球根を植えてみた水谷氏は，スイセンの花が咲いたことに感動し，楽しくて笑顔いっぱいの農業がしたいと思ったという。

特徴的だったのは，会場で苗を植えてそれで終わりではないという点だろう。苗を植えた後は水谷氏のオフィスがあるビルの屋上で育て，その様子をネットで公開。節目ではまた参加者が集まり，その都度イベントを行なう。7月には収穫祭も予定されているという。

さまざまなイベントでワークショップが行なわれることが多いが，その場限りか，そこで制作したものをお土産にするかというのが一般的だと思うが，こうして何か月にもわたって継続して楽しむというのは珍しい企画ではないだろうか。自分で作物を育てる楽しさ，大切さを知ることで，エコについても考えることをねらいとしたイベントだが，環境問題とは一過性のものではないだけに，こうして継続するシステムは非常にマッチしている。人数に限りがあるのが難点ではあるが，その分参加した子どもたちはじっくり取り組める企画ではなかっただろうか。

（4/18㈯　鈴木隆文）